

留学生スタディ京都ネットワーク 2015 年度事業計画及び実施状況について

1 オール京都の留学生誘致・支援体制の構築

(1) 京都留学にかかわる総合ポータルサイトの設置・運営

大学・日本語学校・専修学校などの学校情報、住宅・就職を含む生活情報など、京都地域の留学に関する情報を一元化した総合的なポータルサイトを設置・運営する。（英語、中国語(簡体字、繁体字)、ハングル、日本語の 5 言語を予定)

現在、10 月の開設に向け、ポータルサイトの構成について検討を行うとともに、掲載する学校情報・生活情報等の収集を行っている。

(2) 留学コーディネータによるコーディネート業務

国内外からの京都留学に関する相談・問合せにワンストップで対応するとともに、海外の大学、日本語学校等のキーパーソンとネットワークを築き、情報発信を強化するため、留学コーディネータ（対応言語：英語）を 2 名配置した。

7 月 9 日に米国州立大学連合主催の「全米日本研究セミナー」の京都視察を受入れ（米国州立大学の教員 1 2 名が来訪）、京都の留学情報を紹介するとともに、京都の大学関係者に交流機会を提供した。

2 留学生誘致事業

(1) 国内外での留学フェアへのオール京都ブースの出展

日本学生支援機構が開催する「日本留学フェア」にオール京都ブースを出展し、大学・日本語学校、専修学校、留学生支援施策など、京都の留学情報を包括的に発信するとともに、現地の教育機関や留学関連事業者（留学あっせん会社等）へのセールス訪問を行う。

6 月の東京でのフェアでは、ブースに来場した約 2 5 0 名の日本語学校で学ぶ留学生に対して、京都への進学情報・生活情報等を提供した。今後、タイ・韓国・中国(北京)・ベトナム・インドネシアの計 5 カ国に出展し、京都の留学情報の発信、現地ニーズの把握、現地留学関係者との関係構築に努める。

(2) 海外での京都留学フェアの開催

留学生スタディ京都ネットワークが主催となり、海外において、大学、日本語学校、専修学校、公的機関等の連携による「京都留学フェア」を開催し、現地の学生向けのセミナー・個別相談を行うほか、現地の教育機関等の日本留学関係者との交流会を開催する。

現在、昨年度に引き続く台湾・台北での開催に向け（昨年度は京都市が主催で「京都の大学紹介セミナー」を実施）、参加対象を日本語学校・専修学校に拡大する形式で実施内容・実施時期（1 2 月を想定）の調整を行っており、近く会員に対し、参加意向について照会する予定。

(3) 日本語学校で学ぶ学生のための進学説明会の開催

大学で学ぶ留学生の多くは、来日後日本語学校を經由して入学するが多いため、京都及び関西の日本語学校で学ぶ学生により多く京都の大学や専修学校に進学していただけるよう、キャンパスプラザ京都において、京都の大学等の説明会（模擬授業、セミナー、相談会）を開催する。

現在、11月下旬の実施に向けて、実施内容の検討を行っており、近く会員に対し、参加意向を照会予定。

(4) 留学生によるPRチームの設置・運営

京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し、各国における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報の現地向け発信等を行う。

初年度である今年度は中国、タイ、アメリカの3カ国についてチームを構成するために公募・選考を行い、合計8名（中国3名、タイ3名、アメリカ2名）を選定し、これから活動を開始する。

3 受入環境整備・留学生支援事業

(1) 留学生の就業支援に関するワーキングの運営

2014年度・2015年度に大学コンソーシアム京都で実施する留学生就業ニーズ等に関する調査結果を踏まえながら、京都地域における留学生の就職支援の具体的方策について検討するワーキングを設置・運営する。

第1回ワーキング会議を7月10日に行い、留学生の就職に関して重点的に取り組むべき課題や取組の方向性について検討を行った。今後、来年度の事業の具体化に向け、会議を重ねていく。

(2) 留学生の住環境整備に関するワーキングの運営

留学生誘致・支援に当たって課題となっている留学生の住宅問題について、民間事業者の協力を含めた留学生住宅提供の在り方についての検討を行う。また、大学コンソーシアム京都が事務局を担っている「京都地域留学生住宅支援制度」の在り方についても併せて検討を行う。

現在、ワーキングメンバーの選定を終え、第1回のワーキング会議を7月下旬から8月上旬で実施予定。就職ワーキングと同様、来年度の事業の具体化に向け検討を進める。

(3) 留学生の交流促進支援

京都学生祭典において、留学生との更なる交流を目指す「国際化プロジェクト」が推進されており、こうした活動に対して留学生とのマッチングのサポートを行うことにより、交流促進を支援する。

すでに、京都学生祭典実行委員会と京都地域の中国人留学生会との連携に向け取次ぎを行ったが、今後、一層日本人学生と留学生の交流・連携支援につながる取組を検討する。